

田中恭子先生、キティ・リムスクル先生の定年退職にあたって

経済学部長 柳 澤 哲 哉

本年度、経済学部はお二人の先生を定年によってお送りすることになった。温厚なお人柄の両先生が去られるのは、まことに寂しいかぎりである。

田中恭子先生は東京学芸大学、お茶の水女子大学大学院で学ばれた後、オハイオ州立大学大学院でPh.Dを取得された国際派の研究者である。日本の地域間所得格差と人口移動の関連性を研究されていたが、1995年に本学部に赴任されてからは、出生率や保育サービスの地域格差へと関心を移された。さらに国際比較研究まで視野に入れて、2008年には『保育と女性就業の都市空間構造：スウェーデン、アメリカ、日本の国際比較』を上梓された。2018年に刊行した『グローバリゼーションの地理学』では国際金融機関が推進したネオリベラル経済改革の功罪を論じた。近年のアメリカのトランプ政権成立による政治的分極化にも関心を寄せられている。御退職まで新しい研究対象へと関心を広げ続ける姿勢を我々後進に示していただいたことに、何よりも御礼申し上げたい。また、多くの学部生、大学院生の指導に尽力されたほか、社会環境設計学科長や国際ビジネスと社会発展メジャー長として大学行政にも貢献された。学外では埼玉県戦略的環境影響技術委員会委員、見沼田圃公有地利活用推進事業評価委員など地元自治体の委員会でも活躍された。

キティ・リムスクル先生は、タイのチュラーロンコーン大学において約35年間にわたって教鞭をとられ、この間タイの財務省、教育相の副大臣の要職も歴任された後、2015年10月に本学部の教授として赴任された。学部のグローバル・タレント・プログラム学生を国際的視点から熱心に指導していただき、大学院ではアジアを含む各国の留学生を対象に計量経済学、国際経済論、公共政策論などの幅広い分野で、データと計量的手法を用いた実践的な指導にあたられ、留学生の修論・博論作成の能力向上に大きく貢献された。研究面では、先生の着任と同時に立ち上げられたメコン・プロジェクトの実質的なリーダーとして、運営面・内容面に多大な貢献をされ、その一つの成果として社会科学論集の「メコン経済」特集号（第156号、2019年3月発刊）を編集長及び著者としてとりまとめられた。このほか、在任中に科研費を獲得され日本の援助によるアジア諸国への経済効果の分析に従事されるとともに、各種学会にて米中貿易戦争の一般均衡モデルによる影響分析、タイの成長と所得分配の関係性分析等の数多くの研究成果を発表されてきた。先生におかれては、御退職後も、本学の東アジア・ネットワークの重要なリソースパーソンとして、研究・教育の両面で引続きご支援をいただくことを大いに期待している

ところである。

これまでの両先生のご貢献に対して厚く御礼を申し上げるとともに、これからのますますのご活躍を祈念してやまない。

(2020年2月14日)